

# 都空連 ニュース

第801号

平成8年8月25日

発行 社団法人  
東京都空手道連盟

〒101  
東京都千代田区神田神保町1-32  
山久ビル

TEL 03 (3294) 7770  
FAX 03 (3294) 5800

編集 都空連ニュース  
編集委員会

## 指定形における特長について

社団法人東京都空手道連盟  
常任技術顧問

### 藤本 貞治



各流派の形における受けの特長について語る藤本氏

指定形も漸く定着してきつつあるが未だその競技においての見方(採点)には統一性が不足している様に思えてならない。即ち外側のみしかみてない審判員もある様だ。無論、組手競技の様には細則にわたり審判規定がなされてないこともあるが、審判員一人一人がもっと研究しなくては競技にかけの選手達に申し訳がないのではないか。

組手が先行し最も大切な形が後廻しになっている現状では仕方ないかも知れないが、これを打破しなくては形が単なる体操、踊りの様なものになり衰退して行くことが考えられる。形には外側(外見)と内側(精神面)がふくまれているがそれを中々判断する人が少くないのが心配である。この形にふくまれる外と内とのことについて、槽越とは思いますが、小生の空手歴五十六年の修業における言葉として参考にして頂ければ幸いである。

先づ形を(指定形に張らず)見る上で大切なことは、それぞれの会派の形におけるわざの特長を把握しなければなりません。古来より形は

### 「受けの五法」とは

受けに始まり受けに終ると申す通り受けには次の五通りの方法が伝わっている。即ち「落花」「流水」「転位」「屈伸」「反撃」の五法である。この方法は受け方について伝えられているのだが競技化されて、若い審判員の方々には伝わってない(教わってない)気がする。競技化されれば余計にその特長を覚えて見なければ良い採点がなされないし、各流派の伝統ある特長がなくなってしまう。

「落花」とは落ちくる花びらを大地が受け止める様に、攻撃を受けかすに受け止める。即ち受け即攻、の要領で動かし攻撃となり相手の手足を痛め次の攻を出来なくする方法である。

「流水」とは「落花」とは反対に、相手の攻撃に逆らわず、攻撃を流して受ける方法である。「転位」とは体を捌きのことであり攻撃に対して足捌きを使い体を移動する方法である。

「屈伸」とは体を屈したり、伸ばしたりすることにより、同じ「開合」であっても相手の攻撃を見切ったり屈けた体を伸ばすことにより受けが強力になり、受けからの反撃が可能にする技法である。

「反撃」とは、俗にいう「受け突き」又は、「突き受け」と呼ばれている技法で相手の突き等を肘、背腕等でハジクと同時に突き込む方法である。此の時、大切なことは、立つ位置で相手の内側(向い合う形)に位置することである。即ち解り易くいえば、相手の左の突きを右腕又は肘にて下

から上にハジキ、そのまま拳で相手の左腕を突く技法である。

以上述べた技法が、「受けの五要素」又は「受けの五法」と呼ばれてきた。特に首里系では重要な技法として受けつがれている。これらの技法を良く理解した上で、各会派(指定形)の形を見て審判すれば正しい採点なり意味が理解出来るのではないだろうか。

次に以上の技法が何処に使われているか指摘して見よう。「落花」は特に松濤流系の技、形に多く見られる。

「セイエンチン」は正しい基本の組み合わせと迫力に重点をおき、先に述べた要素の内「落花」を多く使用され、「観空大」では「落花」に加え「屈伸」の技法と、四方八方の敵に対しての「転位」が使われているのに留意しなくてはならない。

「バツサイダイ」は「屈伸」と「流水」「反撃」等の技が多く使われている。特に「バツサイ」の形の目的は腰の切り返しと、突き、受けの技の一致である。それ故にこれを良く見極めなくてはならない。

「セイエンチン」は以上の技に加え、特に「転位」に重点がおかれている。即ち「斜めの捌き」四肢立ちで斜め前に出て斜めに退る個所が四ヶ所ある。この立ち方捌き移動が正しくされているかが重要である。

「サイファー」「セーパイ」では、剛柔流独特の「氣、息、体」の一致と腰の閉め、下半身(立ち方)の閉めに重点がおかれていることであり、剛の中に柔があり、剛と柔の技法をよく理解しなければならぬ。受けの五要素と剛柔の特長たる接近戦を仮定しているからこそ必要となる体の閉め、投げに入る動作、関節技、そして関節技に對しそれを外す技等をよく理解しなくてはならない。

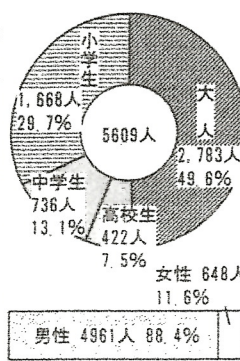
「チントー」「セイシヤン」は和道流の特長たる「入り身」「捌き」、即ち五要素の中の「流水」「転位」に重点がおかれ、他にない独特の立ち方等を理解しなくてはならない。

以上簡単に述べましたがこれだけでは理解しにくいと思います。紙面の都合でこの度には筆をおくが、指定形には減点個所が決まっております。ここを説明し理解していただければ更に理解が深まるので次の機会には又、筆をとるか、特別に「指定形の減点個所について」という講習が開ければ、と思っております。

### 平成八年度会員の階層分布状況

各方面から質問を受けます。都空連には、小生会員は何人いますか、女性会員は何%を占めていますか、などと、これに對し、はなはだ感傷的な物言いで恐縮ですが、と前置きしながら、多分二千人ぐらいではないか、あるいは、二割強ではないでしょうか、などと答えています。なかなか検証できなかったのです。

ところが今年、春季幹事長会議を開催した際に、会員名簿を区郡市幹事長に点検して頂き、「男女別」、「小学生」、「中学生」、「高校生」、「成年」の各層別の分布状況をカウントしてもらいました。その結果が次の表です。



極めて簡単な作業をしたのですが、面白い結果が得られました。

女性が一一、六%とは予想をかなり下回りました。小学生は、けっこう女子は多いでしょうから、思われます。女性会員の拡大が、都空連区郡市連ともに共通の課題です。

「小学生」「中学生」「高校生」を、単純に6、3、3で割り一学年当たりを比較して見ると、「小学生」は二七八・〇人、「中学生」は二四五・三人、「高校生」は一四〇・七人となり、高学年になるに従って、受験勉強に追われるのか、他に眼が向くのか、少数になっております。空手を継続しながら、難関の大学に合格している会員もおります(もちろん大学がすべてであるといった今の風潮は誤りであることは十分承知していますが、心配する父母のために特記した)。

区部では、練馬区が五〇五人、市部では町田市が三二八人と断トツです。両連盟とも、加盟団体が多いと、小学生が多数であることが共通しています。会員拡大という側面からみると、ひとつの指針を示しているのではないのでしょうか。

都空連会員が一人を越えることを目標に、みなさん頑張ります。(事務局 長島野康)